

令和5年度北海道・東北体育・保健体育ネットワーク研究会 岩手わんこそばラウンド報告書



12杯目！

令和6年2月3日(土) 岩手大学 ※ハイブリット対応
参加者20名(山形、東京、神奈川、大分、鹿児島、岩手)

学生、小中高大の教員及び指導主事が校種や立場を超えて、体育授業研究事例の発表と『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた指導の実践』について語り合い、有意義なラウンドにすることができました。

1 実践発表「学習指導要領の趣旨を踏まえた体育授業研究事例」

発表①「できる喜びを実感し、主体的に運動に親しむ子どもが育つ授業」

→運動と多様にかかわる時間において、試したり支え合ったりする学習活動を通して→

【実践校】盛岡市立仁王小学校 研究主任 三浦正弘 先生

自分(たち)の願いや思いを明らかにして、運動に取り組んだり互いの動きを見合ったりするなど、体育の見方・考え方を働かせて、運動と多様にかかわる学習活動を保障しながら、よい動きへと高まっていく学習活動を設定していく実践例です。

全校研究の手立て ①子どもの「学びの文脈」をデザインするについて

全校研究の手立て ②よりよく学ぶ3つの視点「つなぐ」「えらぶ」「つかう」を駆使するについて

○運動と多様にかかわる時間の中で、子どもたちは自分に必要な運動を選びながら、主体的に運動にかかわる姿が見られた。(個別最適な学び) ○子どもに預ける時間(運動と多様にかかわる時間)を意図的に設定したことで、協働的な学びを生み出すことができた。▲もっとかかわりの生まれる協働的な学びとなるための手立てが必要である、という発表でした。

発表②「小学校体育の授業力を向上させる学習会の在り方について-岩手・県北体育学習会-

【実践】一戸町立一戸小学校 村田雄大 先生 岩手大学教職大学院 志和孝洋 さん

現在、岩手には10地区で体育学習会が定期的に開催されており、全国的にみても体育・保健体育に関わる授業交流が盛んな県であると思います。

- ①教材紹介・体験 ②教師の発問交流
③実践時の児童の様子との交流 ④教材開発的な活動

できるだけ垣根を低くしてたくさんの先生方が参加できるような工夫や、学習会通信や動画配信を行って、会の内容を広く伝える工夫をなされていることが分かりました。また後継者を育てたり、様々な年齢層の方々に参加してもらえるような内容にしたりするなど、会の活性化も行われています。

2 ワーク『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた指導の実践』

『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けた指導の実践』について5グループに分かれ、各グループで領域や学年、そして内容について決定し話し合いました。

ICT機器を活用することで、個と集団を結び付けながら学習を進めることが容易となり、学びの目標・ねらいを達成することができると考えます。

様々な校種の先生方が入り混じり活発な話し合いが行われました。(右はその際のワークシートです。)

ICT活用のアイデア 個別最適な学び・協働的な学び 検討領域 ()学校(4)学年 領域・種目(ゲーム)

(5)グループ メンバー(横田、宮澤 三浦)

ICTの活用	○指導の個別化(定着)	△学習の個別化(深化)	★協働的な学び(関係力)
応用する(思考・判断)	試合で使えるように、練習する。(ICTを活用?)	動きの撮影を見る(動き方、チーム) オフザボール(他の人の動き対応)	お互いに撮影する児童グループの仲間・動きがわかるにつれて変化しているのか。
できる(技能)	AI・アプリを活用して、その子に合った技能の定着につなげる	動きの撮影(スキル) 自分スローモーション 後だし(再生ソフト)	撮影・写真をもとによりよい動きのためにアドバイスをする。
理解する(知識)	AI・アプリの活用で、よりよい動きを理解させる	動きを見る(分析)	動きを見る(個人)→撮影・動画を元にアドバイス(身につけたことに対してロボットノートで付箋機能を使って、画像付き)
関わる(主体的に取り組む態度)	振り返り・中間の振り返り(個別子どもで動画を撮影して、次の学習につなげることで定着を促す)の学び 見える	振り返り(ロボットノート)書き留める、アンケート→資料	クラスの仲がだより、壁へのアドバイスなどは自分から出しているかを評価するICT機能を活用し、その結果を踏まえて、主体的に学んでいるか、協働的に関わっているかを確認できるようにする。